



北海道のこども施策に関する提言

こどもんなか社会の実現に向けて意見を言うために大切なことについて

北海道こども施策審議会こども部会

北海道のこども施策に関する提言

【 検討テーマ 】

「こどもまんなか社会」の実現に向けて 意見を言うために大切なこと

- 令和7年(2025年)1月9日、10日の2日間にわたり、私たちが「こどもまんなか社会」の実現に向けて意見を言うために大切なことをテーマに話し合いを行いました。
- その結果を踏まえ、今後、北海道のこども施策を策定・実施・評価する際のこどもたちから意見を聴く場面における3つの提言をしますので、反映してくださいようお願いします。

【 提言項目 】

- 1 こどもたちが意見を言える機会を増やすこと。
- 2 こどもたちが安心して意見を言えるよう、話しやすい雰囲気作りや否定せずに受け入れる姿勢をもつなど、こどもたちが意見を言いやすい環境を作ること。
- 3 意見を求める側は、理解しやすい言葉や例を用いて資料を作成するほか、グループでの意見交換やデジタルツールの利用など、手法を工夫するとともに、出された意見の検討プロセス（過程）や結果を分かりやすくフィードバックする（返す）こと。

提言項目 1

こどもたちが意見を言える機会を増やすこと。

主な意見

- (1) こども部会のようなこどもが意見を出すことのできる機会を増やす。
- (2) 対面で意見を提言できる窓口のような場があるといい。

提言項目 2

こどもたちが安心して意見を言えるよう、話しやすい雰囲気作りや否定せずに受け入れる姿勢をもつなど、こどもたちが意見を言いやすい環境を作ること。

主な意見

- (1) 周りの反応がある。
- (2) 信頼している人、気軽に話しやすい人がいる。
- (3) (意見を聞く人が) 和やかな雰囲気づくりをする。
- (4) どんな意見でも否定しない。
- (5) 自分の考えをまとめたり、意見を言う練習を学校で行う。

＜提言項目1及び2に関し委員から出た関連意見＞

【心理的安心感の確保】

- ・自分が言ったことに反応してくれることが大事。
- ・意見が終わった後に、相づちや拍手（ジェスチャー）をする。
- ・周りからのポジティブな反応があるといい。
- ・（オンラインの場合）意見を言ったときに「いいね」というリアクションがあるといい。
- ・（安心して意見を言うためには）自分が信頼している人がいること、情報が漏れないことが大事。
- ・気軽に話しやすい人がいること。
- ・家族など信頼している人がいて喋りやすい環境。
- ・和やかな雰囲気
- ・普段学校で友達と話すようなラフな雰囲気をつくる（敬語を使わない、簡単な話題の提供）
- ・みんなが明るくしている。（暗かったら、話している人は、「みんな聞きたくないのか？」とってしまう。）
- ・例えば間違ったことを言っても励ましてくれる人がいること。
- ・傷つかない言葉選び（相手を否定しない、決めつけるような口調にはしない。）
- ・意見を言いにくい、安心して意見を言えない状況は「周りの人の関心が自分にだけ集中している」か「周りから、反応がない」のどちらか二つだと思う。
- ・全面否定されることがない。
- ・遠慮せずに（意見を）言える場作り。

【自己肯定感の向上】

- ・自分自身や自分の意見に自信を持つ。
- ・自信を持つために自分の考えをまとめる練習をする。
- ・自分の意思を確定させること。
- ・緊張しすぎない。できるだけ楽観視をしてみると緊張しなくてよい。

【参加メンバーとの関係作り】

- ・初対面や年齢も違うと緊張してしまうので、少しの勇気でまずは打ち解ける。
- ・同じ趣味を見つけるなど参加者と打ち解けられるようにする。
- ・他の参加者に積極的に話しかける。（相手の話をしっかり聞く）

【テーマ設定】

- ・フリートークより、話し合うテーマが決まっている方がよい。
- ・分かりやすいテーマ設定としてほしい。

【日頃からの環境作り】

- （学校で意見を聴く場合）学校の先生と仲良くなれる（話せる）環境が大事。
- 他の人の話にも耳を傾ける、他人を否定しないなどのグラウンドルールを教育現場に普及させること。
- 上っ面で励ますこと、共感することではなく、心の底から励ましている、共感できているという状態を大人が共有する機会が必要。

提言項目3

意見を求める側は、理解しやすい言葉や例を用いて資料を作成するほか、グループでの意見交換やデジタルツールの利用など、手法を工夫するとともに、出された意見の検討プロセス（過程）や結果を分かりやすくフィードバックする（返す）こと。

主な意見

- （１）意見を求める側は分かりやすい言葉や例を用いて説明する。
- （２）上手な質問をするのも大事（質問によって意見の言いやすさが変わる。）
- （３）デジタル掲示板やアンケート・チャット形式で伝える。
（対面で言いづらいため。思ったときに書き込めるように。）
- （４）メッセージや Zoom などのメリット、デメリットを分析し、適材適所で活用。
- （５）発言された意見を取り入れているのが目に見えるようにしてほしい。

<提言項目3に関し委員から出た関連意見>

- ・意見の例があると、どういう趣旨で言えばいいか分かるので、自信を持って意見を言える。
- ・メッセージ（視覚）よりも Zoom（視覚・聴覚）、Zoom よりも対面での対話が大切なのではないかと思った。
- ・（オンライン上であったとしても）対面と同様に（その場で）口頭で分からなかったことを聞けるような雰囲気。
- ・対面の場合も、考える時間を確保してほしい。
- ・対面での意見交換が苦手な場合、メールを活用。
- ・考える時間が持てるなど、メッセージや Zoom にもメリットがある。

北海道こども施策審議会こども部会委員名簿

NO	区 分	氏 名	所属（在籍校）	備考
—	審議会委員	のむら ひろゆき 野村 宏之	北海道社会福祉協議会	部会長
1	特別委員	やまざわ しゅんた 山澤 俊太	岩見沢市立光陵中学校	
2	特別委員	ささき るい 佐々木 瑠	札幌北高等学校（定時制）	副部会長
3	特別委員	いしみ いつき 石見 斎	ニセコ町立ニセコ中学校	
4	特別委員	くさかえ はな 草替 羽那	室蘭栄高等学校	
5	特別委員	ほりかわ りおん 堀川 涼音	様似町立様似中学校	
6	特別委員	もりた しょうご 森田 翔悟	函館商業高等学校	
7	特別委員	やまもと べに 山本 紅	上ノ国高等学校	
8	特別委員	よねざわ さくら 米澤 咲良	旭川永嶺高等学校	
9	特別委員	とよた はるか 豊田 春花	留萌高等学校	
10	特別委員	さわだ なみ 澤田 奈実	利尻富士町立鬼脇中学校	
11	特別委員	すみよし いっき 住吉 壺城	網走桂陽高等学校	
12	特別委員	あんどう えな 安藤 愛菜	清水町立清水中学校	
13	特別委員	あらい ひでかつ 新井 秀稼津	弟子屈高等学校	
14	特別委員	なかした こうさく 中下 空咲	根室市立柏陵中学校	
15	特別委員	こまがた あゆと 駒形 歩音	札幌光星中学校	
16	特別委員	くどう そういちろう 工藤 宗一郎	北海高等学校	副部会長
17	特別委員	かさまつ かえで 笠松 楓	岩見沢高等養護学校	

特別委員任期：令和6年（2024年）12月19日から令和7年（2025年）3月31日